

展覧会レビュー

Konohana's Eye #1 伊吹 拓 展「"ただなか" にいること

(2013/03/15~05/05:the three konohana@大阪 此花区梅香)

若く活きの良いギャラリーが次々と生まれ、今最も勢いのあるアートシーンを見せてくれる大阪に、この春また一つ、熱いギャラリーが誕生した。

大阪の若いギャラリスト達の中でも、その牽引役の一人となっている、インディペンデント・キュレーター山中俊広氏が、満を持してオープンしたギャラリースペース「the three konohana」(ザ・スリー・コノハナ)がそれだ。

その柿落としとして開催されたのがこの展覧会である。

この展覧会を一言で表すと『息づいている展示』と言えよう。

ここで『息づいている絵画』ではないことをあえて強調したい。すなわち『息づいている』のは作品だけではないのである。

確かに、伊吹拓氏の作品は艶かしいまでの体温を感じさせる『息づいている』絵画である。強弱を織り交ぜたアクセントのある色彩のリズム。薄く引き伸ばした絵の具の積層による繊細なハーモニー。力強さと繊細さを併せ持つ、包容力のある抽象画面が展開されて行く。だが、この展覧会はそれだけでは終わらない。

実はこの展示空間は奇妙な構造になっている。古い事務所を改装したホワイトキューブの他に、その奥に生活感溢れる古い和室があるのだ。

その生活臭漂う和室の中に、「Work in Progress」と称した未完成の作品が、まるでちゃぶ台のように水平に置かれ、窓から差し込む自然光の下、鑑賞者はのんびり座ってお茶を飲みながら鑑賞するのである。そこはもはやギャラリーと言う特殊な環境下ではなく、日常の生活空間であり、『息づいている』空間と言えよう。

この作品は、会期中に何度か手を加えられ変化していく。すなわちその「過程」を展示しているのだ。恐らく会期を終える頃にはまるで違う作品へと変貌を遂げていることだろう。さらに時間や天候によっては、光の反射により色が消えマチエールを浮かび上がらせたり、逆に薄暗くなり色が薄れぼんやりとした気配だけの存在になったりと、全く違った表情を見せることだろう。

生乾きの絵の具の臭いがするそれは、まさに今生まれゆく、成長する絵画であり、『息づいている』のである。それはもはや絵画と言う領域を超えたインスタレーションであり、絵画に対する認識のあり方を、改めて見る者に問いただしてくる。



Konohana's Eye #1
伊吹 拓 展 "ただなか" にいること
2013年3月15日(金)~5月5日(日)
(OPEN 14:00-19:00 / CLOSED 19:00-21:00)
the three konohana
1-1-10 此花区梅香 1-1-10 此花区梅香 1-1-10 此花区梅香
TEL: 06-6677-1117 / www.threekonohana.com / thethreekonohana.com



さらに忘れてはいけないのが、このギャラリーのある、「大阪市此花区梅香地区」と言う土地柄である。この地もまた『息づいている』のだ。

大阪此花区は、かつては阪神工業地帯の中心地として、高度経済成長期を支えた場所であり、梅香地区はその労働者のための住宅街として栄えていた。だが重工業の衰退と共に寂れ、半ば廃墟と化した工場跡地や空き家が立ち並ぶ場所となっていたのである。

だがそれを逆手に取り、町おこしとして、安価な家賃でアーティストやデザイナーを志す若いクリエイターを召致し、今では元メリヤス工場を改装した、かつて藤浩志氏がアトリエを構えていた「此花メヂア」を中心に、アーティスト村の様相を呈しはじめている。今後注目のアトスポットと言えるだろう。

高齢者を中心とした古い住民と、なにやら珍妙なことをやっている若いクリエイター達が織り成すハーモニー。たまには不協和音もあるだろう。だがそれら清濁併せ呑む、不思議な魅力が町自体に『息づいている』のである。

『息づいている』その地に『息づいている』空間。そのなかに『息づいている』作品があり、そこへ訪れた人が何かを感じることができたならば、それは巡り会いであり、何かの縁である。その新たな縁が、新たに『息づき』その輪を広げていければ、それはやがて文化となり、生まれ育ってこの地に『息づいていく』。

昨今では、おしゃれな街のおしゃれなビルの一角に、おしゃれな作品を並べた、まるでブランドショップのような現代アートギャラリーも多々見られる。まるでインテリアやアクセサリーを見るかのような感覚で、アートをショッピングできる。流行にも敏感に反応し、手を変え品を変え、さらには店舗までもが移転する。

確かにそれは展示の一つの形であり、アートマーケットの拡大に繋がることでもあるのだろう。だがそこに『息づかい』は感じられない。そこに文化は『息づかない』。たとえ泥臭くとも、その地に根ざし『息づいて』、はじめて文化となるのだ。

この展覧会は、単なる作品展示に留まらず、そんな地域文化のあり方まで考えさせてくれる、興味深い内容である。

(文責：美樂舎会員 丹伸巨)

～2013年4月 美樂舎会報258号より～

◎関連情報

- ・ the three konohana HP : <http://thethree.net/>
- ・ 此花アーツファーム HP : <http://konohana-artsfarm.net/>
- ・ 美樂舎 HP : <http://bigakusya.com/>